



国指定重要文化財

もくぞういだてんりゅうぞう
木造韋駄天立像

(岐阜市 乙津寺 [鏡島弘法] 蔵)

鎌倉時代

像高78.8cm (兜を除く) 台座高12cm

俊足を「韋駄天走り」と表現することがありますが、その語源となった仏神です。釈迦尊が亡くなった時、仏舎利を盗んだ鬼神を追いかけ、取り返したという伝承があります。インド古代宗教の軍神でしたが仏教に取り入れられ、四天王の下、仏法守護を担い伽藍(がらん)に配置されますが、庫裡(くり)や僧房にまつられることもあります。それは、釈迦尊のために奔走し、食べ物を集めたという言い伝えにちなむものとされています。

切れ長の日、宝剣を捧げ静かに合掌した姿に清廉な印象を受けます。韋駄天像としては、古作に属し、甲冑(かっちゅう)や衣装の彫りは深く、ふわりと開いた両袖、左足を踏み出した全容に時代性を感じます。岐阜空襲の折には、乙津寺駐在の兵士によって庫裡から担ぎ出され難を逃れました。

(特別展「先人からのギフト」に出品)

***** 館蔵資料紹介 *****

そう ぜん こうきゆうしゃくもん
蒼髯公九錫文

各務支考 享保13年(1728) 掛幅
幅184.8cm 高21.0cm (本紙)

各務支考(寛文5年〈1665〉～享保16年〈1731〉)の手による、金沢の松花台にある松の木「蒼髯公」に関する俳文です。支考は、美濃国山県郡北野村(岐阜市)に生まれ、松尾芭蕉の代表的な弟子の一人です。多くの著書を残し、各地を行脚し、獅子門・美濃派を築きました。本作品が書かれた享保13年には、支考は、体調を崩しており金沢には訪れていませんが、それ以前には度々訪れていました。内容としては、中国での松の歴史から筆が起こされ、日本での松の歴史、「蒼髯公」が中国の漢・晋時代に皇帝から与えられた最高の恩賞である九錫を授けられたことなどが書かれています。

また、表具の松の絵は幕末に活躍した南画家

<支考落款>

<作品冒頭部分>

利用の御案内

- **開館時間** 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- **休館日** 毎週月曜日と祝日の翌日
(月曜日が祝日の場合はその翌日)
年末年始(12月28日～1月3日)
※特別展・企画展開催中は変更することがありますので、ご注意ください。
- **観覧料** (団体は20人以上)
歴史博物館総合展示、加藤栄三・東一記念美術館
高校生以上 300円(団体240円)
小中学生 150円(団体90円)
両館共通で観覧される場合
高校生以上 510円(団体410円)
小中学生 250円(団体150円)
- **交通案内** JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。
岐阜公園内ロープウェー乗り場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。
- ・家庭の日(毎月第3日曜日)に入館する中学生以下の人
- ・家庭の日(毎月第3日曜日)に入館する中学生以下の人に同伴する家族(高校生以上)の人(特別展を除きます。)
- ・岐阜市内の小中学生の人(特別展を除きます。)

◎次の方は無料でご観覧いただけますので、手帳等をご提示ください。

- ・岐阜市在住の70歳以上の人
- ・身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の交付を受けている人、およびその介護の人1人

博物館だより No.90 2015. 8
編集・発行 岐阜市歴史博物館
〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1 ☎058(265)0010
(分館) 加藤栄三・東一記念美術館
〒500-8003 岐阜市大宮町1-46 ☎058(264)6410